

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22610009

研究課題名（和文） 子どもの居場所を支える地域環境のあり方に関する研究

研究課題名（英文） Study on the state of the local environments supporting children's place constructing behaviors

研究代表者

林田 大作（HAYASHIDA DAISAKU）

大阪工業大学・工学部・准教授

研究者番号：20379613

研究成果の概要（和文）：本研究では、遊び場を中心とする子どもの居場所を、アンケート調査・行動観察調査などによってとらえ、描画表現・自由記述表現の分析を通して、子どもの居場所を「生活場面」として分類・整理した。また、「生活場面」を成り立たせている要素を「環境資源」と位置づけ、子どもがそれに着目し、使いこなしながら居場所をつくる行動（場所構築行動）を支援する施設・制度・プログラムのあり方を考察し、子ども環境づくりの指針としてまとめた。

研究成果の概要（英文）：In this study, children's places that are mainly playgrounds were researched by questionnaire and observation investigations. Through the analysis of drawing expressions and free description expressions, the children's places were classified and arranged as the "scene of lives". Moreover, the elements that are supporting "scene of lives" could be regarded as "environmental resources." It is said that children are paying attention to them, are making use of them, and are constructing their own places. Besides, the ideal state of the local institutions, the systems, and the programs that supports children's place constructing behaviors were considered. Finally, the guideline of making children's places was organized.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：子ども学（子ども環境学）

キーワード：子ども環境、居場所、環境行動論、場所構築行動、生活場面、環境資源、教育福祉施設計画、居住施設計画

1. 研究開始当初の背景

(1) 子どもの居場所とそれを支える地域環境
研究代表者は、本研究開始以前まで、少子・高齢・過疎化地域や地方都市中心部において、小学校児童が日常環境の中に「お気に入りの場所」を発見し、使いこなし、意味づける行動の実態を明らかにしてきた。この行動によって形成される場所は、「子どもの居場所」と呼べるものであり、子どもの日常生活に無くてはならず、子どもの健全な育成に

入りの場所」を発見し、使いこなし、意味づける行動の実態を明らかにしてきた。この行動によって形成される場所は、「子どもの居場所」と呼べるものであり、子どもの日常生活に無くてはならず、子どもの健全な育成に

寄与することがわかっている。

また、かつての地域コミュニティは、子どもに対する「教育力」や「防犯安全性」を含むものであったが、現在、地方都市中心部では、少子化・高齢化・都市の空洞化に伴って地域コミュニティが大きく変容し、とりわけ「教育力」と「防犯安全性」の点で大きな課題を抱えている。このような経緯から、これまでの研究蓄積を発展させ、子どもの居場所に焦点をあてた地域環境づくりに関する研究を推進する着想に至った。

(2) 住民主体のまちづくり

子どもは、自宅と教育施設・福祉施設・都市施設（学校・幼稚園・図書館・公園・道路など）を日常的に行き来して居場所を形成するが、一方で子どもの居場所の形成を支えているのは地域環境であると言える。地域環境は、住民の日常生活や種々の活動、地域の歴史や文化などの地域固有性、地形・自然・景観・都市施設・建築物などの地域の環境資源などであり、大きく「ハード的要素」と「ソフト的要素」に分類できる。

現在、まちづくりの現場では「住民参加」の手法が採用されることが多いが、行政主導のまちづくりに住民が参加するという枠組みには限界もある。「参加」の枠を超えて、地域環境に精通した主体的な推進者（ファシリテータ）が地域には必要であり、合意形成に至るための「環境づくりの指針」を構築し、住民が共有し、住民が主体となって自らの地域環境のあり方を議論する必要がある。

本研究では、「住民主体のまちづくり」の機運が高まっている地域において、子どもの居場所とそれを支える地域環境のあり方を研究し、「住民主体のまちづくり」における主体的推進者（人材）の育成に関する知見の抽出、画一的でない地域に根ざした子ども環境づくりの指針を構築する。

2. 研究の目的

本研究は、少子化・高齢化・過疎化・地域コミュニティの変容・犯罪不安などの課題を持ちながらも「住民主体のまちづくり」の機運が高まっている地方都市中心部の地域を対象として、子どもの「遊び場」「学び場」などの「居場所」に焦点をあてて、子どもの健全な育成・地域の教育力の向上・地域の防犯安全性の向上を一体的に推進するための「子ども環境づくりの指針」を導き出すことを目的とする。

3. 研究の方法

研究対象地は、和歌山県和歌山市中心部とし、特に、6つの教育・福祉施設（和歌山市立S保育所・和歌山市立S小学校・和歌山市立S中学校・和歌山県立Wろう学校・和歌山県立W

商業高校・私立M保育園）が集中し、約2300人の子どもが集っているS地区に焦点をあててケーススタディを行った。S地区では、「教育福祉施設・保護者連絡協議会」が設立され、施設間連携・住民主体のまちづくりの機運が高まっている。

(1) 環境資源に関する調査・分析

和歌山市中心部およびS地区の歴史的・文化的・社会的な特徴・固有性などの「社会文化的環境資源」、研究対象地における居住施設・子育て支援施設・児童福祉施設・小学校・学童保育所・公共施設・文化施設などの「物的環境資源」、自治会・PTA・NPO・NGO・ボランティア団体・福祉団体・サークルなどの「人的環境資源」の調査・分析を行った。

(2) 小学生の放課後の遊び場と居場所に関する調査・分析

和歌山市立S小学校・紀の川市立H小学校において、ヒアリング調査・アンケート調査（描画表現・自由記述表現を含む。）・行動観察調査を行い、小学生の放課後の遊び場と居場所に関する調査・分析を行った。

(3) 自宅に付随する子育て支援環境に関する調査・分析

未就学児童の居場所を考察するため、最も身近な生活環境である「自宅」に付随する子育て支援環境に着目し、「大阪市子育て安心マンション事業」の調査・分析を行った。

(4) 子どもの居場所を支える施設・制度・プログラムに関する調査・分析

未就学児童および小学生の居場所を考察するため、和歌山県・和歌山市・S地区における子育て支援施設・児童福祉施設・小学校・学童保育所・公共施設・文化施設などの「施設」、子育て支援・放課後の居場所づくりなどの施策・事業・助成などの「制度」、各施設で行われている子育て支援・放課後の居場所づくりなどの「プログラム」の調査・分析を行った。

(5) 子どもの場所構築行動に関する調査・分析

和歌山市立S保育所・私立M保育園において、ヒアリング調査・アンケート調査（描画表現・自由記述表現を含む。）・行動観察調査を行い、未就学児童の居場所に関する調査・分析を行った。また、未就学児童の居場所と子育て支援環境の関係性を考察し、(2)の結果も統合しながら、子どもを取り巻く環境資源と子どもの場所構築行動に関する調査・分析を行った。

(6) 子どもの場所構築行動を支える環境資源

に関する調査・分析

(1)～(5)に立脚して、和歌山市中心部およびS地区における子どもの場所構築行動と「社会文化的環境資源」「物的環境資源」「人的環境資源」との関係性を、環境行動論的視点から調査・分析した。

4. 研究成果

(1)環境資源の実態

和歌山市中心部およびS地区における「社会文化的環境資源」「物的環境資源」「人的環境資源」の概要が明らかになった。

(2)小学生の放課後の遊び場と居場所の実態

和歌山市立S小学校・紀の川市立H小学校において、小学生の放課後の遊び場、小学生の放課後生活、小学生の意識・ニーズが把握された。また、描画表現・自由記述表現の分析を通して、小学生の居場所が「生活場面」として分類・整理された。さらに、小学生の遊び環境、小学生の放課後の居場所づくりに必要な要素が抽出された。

(3)自宅に付随する子育て支援環境の実態

「大阪市子育て安心マンション事業」の調査・分析から、自宅に付随する子育て支援環境の実態が明らかになり、未就学児童を取り巻く居住環境の現状と課題が抽出された。

(4)子どもの居場所を支える施設・制度・プログラムの実態

和歌山県と和歌山市・S地区における未就学児童・小学生の居場所を支える施設・制度・プログラムの概要が把握され、現状と課題が抽出された。

(5)子どもの場所構築行動の実態

和歌山市立S保育所・私立M保育園、和歌山市立S小学校・紀の川市立H小学校における未就学児童・小学生の日常生活、地域環境における施設の利用状況、および場所構築行動の実態が明らかになった。また、描画表現・自由記述表現の分析を通して、未就学児童の居場所が「子育て生活場面」として分類・整理された。さらに、未就学児童・小学生の場所構築行動の見地から、施設・制度・プログラムの問題点や課題が抽出された。

(6)子どもの場所構築行動を支える環境資源の実態

和歌山市立S保育所・私立M保育園、和歌山市立S小学校・紀の川市立H小学校における、未就学児童の「子育て生活場面」、小学生の「生活場面」が、場所構築行動の見地から把握された。また、これらの「生活場面」を成り立たせている「社会文化的環境資源」「物的環境資源」「人的環境資源」の実態が把握さ

れた。さらに、未就学児童と保護者、小学生が地域の環境資源に着目し、使いこなし、居場所をつくる行動(場所構築行動)を支援する施設・制度・プログラムのあり方を考察し、子ども環境づくりの指針としてまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① Daisaku Hayashida; Basho-kouchiku "Place Constructing Behaviors", Journal of Asian Urbanism, No.6, pp.28-29, 査読有, 2012, DOI, URLなし
- ② 林田大作, オフィスワーカーにとっての「サードプレイス」, 建築と社会, 査読無, vol.92, No. 1069, pp.17-18, 2011年, DOI, URLなし

[学会発表] (計12件)

- ① 藤井歩, 林田大作; 共働き家庭の日常生活における子育て支援としての居場所に関する研究～和歌山市中心部におけるケーススタディ～, 日本建築学会大会(北海道), 2013年8月30日～9月1日(発表確定), 北海道大学(北海道)
- ② 藤井歩, 林田大作; 日常生活における子育て支援環境に関する研究～和歌山市中心部におけるケーススタディ～, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 2013年6月15日～16日(発表確定), 大阪工業技術専門学校(大阪府)
- ③ Daisaku Hayashida, Kei Adachi, Koichi Nakaie and Ayumu Fujii; Children's Place Constructing Behavior and Environmental Resource Evaluation, ISAIA(International Symposium on Architectural Interchanges in Asia)9th, 2012.10.22～25, Gwangju, Korea
- ④ Daisaku Hayashida, Kei Adachi, and Koichi Nakaie; Research on the Relationship between 'Places' Constructed by Elementary School Children in their After-School Lives and the Local Environmental Resources, EDRA (Environmental Design Research Association) 43rd, 2012.5.30～6.2, Seattle, Washington, U.S.
- ⑤ 林田大作; オフィスワーカーの『居心地の良い場所』『居心地の悪い場所』における行動場面の分析, 日本建築学会大会(関東), 2011年8月23日, 早稲田大学(東京)
- ⑥ Daisaku Hayashida; Research on "Place constructing behavior" in a densely populated city - Through the analysis of behavior settings in "Comfortable

place” and “Uncomfortable place”, EDRA (Environmental Design Research Association) 42nd, 2011.5.27, Chicago. U. S.

- ⑦中家浩一, 林田大作; 子どもの遊び場における描画表現と子どもの放課後生活に関する研究 和歌山市立砂山小学校と紀の川市立東貴志小学校をケーススタディとして, 日本建築学会大会 (北陸), 2010年9月11日, 富山大学 (富山県)
- ⑧南幸美, 林田大作; 和歌山市中心部におけるアーバンストックに関する研究 現状と活用にむけての課題, 日本建築学会大会 (北陸), 2010年9月10日, 富山大学 (富山県)
- ⑨十佐近侑里, 林田大作; まちなかに構築される居場所に関する研究 和歌山大学・鹿児島大学・金沢大学の学生を対象として, 日本建築学会大会 (北陸), 2010年9月9日, 富山大学 (富山県)
- ⑩奥本裕美子, 十佐近侑里, 林田大作; 大学生がまちなかに構築する「場所」に関する考察-和歌山大学・鹿児島大学・金沢大学を事例として-, 平成 22 年度日本建築学会近畿支部研究発表会, 2010 年 6 月 20 日, 大阪工業技術専門学校 (大阪府)
- ⑪伊藤里紗, 中家浩一, 林田大作; 描画表現にみる子どもの放課後の遊び場に関する研究, 平成 22 年度日本建築学会近畿支部研究発表会, 2010 年 6 月 20 日, 大阪工業技術専門学校 (大阪府)

[図書] (計 2 件)

- ①日本都市計画学会関西支部編; 「都市・まちづくり学入門」, 学芸出版社, 2011 年, 223
- ②日本建築学会編; 「まちの居場所 まちの居場所をみつける／つくる」, 東洋書店, 2010 年, 224

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林田 大作 (HAYASHIDA DAISAKU)
大阪工業大学・工学部・准教授
研究者番号: 20379613